平成10年度
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

船引地区遺跡
大野原遺跡・五か村遺跡
浜川原遺跡
横市地区遺跡

平成11年3月

宮崎県教育委員会

平成10年度
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

船引地区遺跡
大野原遺跡・五か村遺跡
浜川原遺跡
横市地区遺跡

平成11年3月

宮崎県教育委員会

序

宮崎県教育委員会では、埋蔵文化財の保護を図るため開発計画のある地域の発掘調査および分布調査を行っております。

平成10年度は県内各地で各種の農業基盤整備事業が実施され、事業に伴う発掘調査等を行っております。

本報告書は、平成10年度に県内で行った確認、試掘調査のうち4地区の概要を報告するものであります。

この調査報告書が、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整の資料として活用され、また、埋蔵文化財に対する認識と理解に役立つことを期待いたします。なお、調査に際しましてご協力いただいた関係機関に対し、心から感謝いたします。

平成11年3月

宮崎県教育委員会

教育長　笹　山　竹　義

例　　言

1　本報告書は、宮崎県教育委員会が平成10年度の文化庁国庫補助を得て実施した発掘調査の概要報告書である。

2　発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業に伴う周知の遺跡の確認調査及び未周知か所の試掘調査として実施した。

3　遺跡の名称は、現在周知されている遺跡については、その名称を、今回の分布調査、試掘調査等で新たに確認された遺跡についてはその農業基盤整備事業の地区名を使用している。正式な遺跡名は、今後字名等を参考に命名される予定である。

4　発掘調査は、県文化課埋蔵文化財係主査長津宗重、同柳田宏一、主任主事重山邦子が担当した。また、発掘調査にあたっては、関係市町村教育委員会及び同農政部局、当該地区の県農林振興局、支庁等の協力を得た。

5　本報告書の執筆は各担当者が行い、編集は柳田が行った。

6　出土した遺物は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

目　　次

第1章　平成10年度の発掘調査概要 …… 1

第2章　発掘調査の結果 …… 1

第1節　船引地区遺跡 …… 1

第2節　大野原遺跡・五か村遺跡 …… 6

第3節　浜川原遺跡 …… 9

第4節　横市地区遺跡 …… 11

第5節　試掘調査・確認調査一覧 …… 16

第１章　平成10年度の発掘調査概要

宮崎県では、基幹産業としての農林業の各種整備が年間を通し実施されている。ここ数年は、従来の農地防災事業、農地保全事業や各種農道整備事業等に加え、農村環境の各種整備や中山間地域の総合整備事業、担い手育成事業等、これまでより幅広い各種整備事業が展開されてきている。

県文化課では、これらの開発事業と埋蔵文化財の保護との調整をはかるため、平成10年度事業予定区を中心に分布調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地およびその周辺地区、遺跡の立地する可能性が高い箇所については、確認調査・試掘調査を実施した。(別紙参照)

本報告書ではこのうちの確認調査・試掘調査の４地区について報告するものである。

第２章　発掘調査の結果

第１節　船引地区遺跡

１．遺跡の位置と調査に至る経緯

船引地区遺跡は宮崎県宮崎郡清武町大字船引に所在する。清武町は県中央部にあり、宮崎市の南西に位置している。船引地区遺跡はその清武町内でも北部の標高100m以下のシラス台地上に所在している。台地の南側には清武川が流れており、比高差40m～50mを測る。この台地は宮崎市と清武町にまたがっており、清武町側には白ヶ野第１・第２遺跡、滑川第１・第２遺跡ほか13遺跡が所存する。隣接する宮崎市側には上ノ原第１遺跡など３遺跡が分布している。

船引地区のほ場整備事業は、西側の白ヶ野地区から着工されており、宮崎県教育委員会では平成５年度に白ヶ野第１遺跡及び滑川第１・第２遺跡周辺、平成７年度に白ヶ野第１・第４遺跡周辺、平成８年度に滑川第１・第２遺跡周辺、平成９年度に山出遺跡周辺の確認調査を実施している。その結果に基づき清武町教育委員会が平成７年度に白ヶ野第１遺跡、平成８年度に白ヶ野第４遺跡、平成９年度に白ヶ野第１遺跡、平成10年度に滑川第１・第２遺跡の発掘調査を実施している。

今年度の確認調査は、滑川第１・第２遺跡の南側の坂元第２遺跡周辺で実施した。実施地点は中央部が低く縁辺部が高くなる地形で、現況では小さな起伏は見られない。しかし、確認調査の結果、縄文時代遺物包含層では小さな起伏が連続しており、遺跡が比較的広い範囲に広がっている。南側の清武川に向けた崖付近と北側の丘陵の尾根から延びる斜面に縄文時代を中心とする遺跡が営まれていたことが確認された。

確認調査は、平成10年６月29日から８月31日までの17日間行った。調査には重機を使い、１m×５mのトレンチを76個設定した。

２．試掘調査の概要

各トレンチの基本土層は削平の程度はあるがおおむね次のとおりである。

Ⅰ層：暗褐色軟質土　　現在の耕作土である。砂質で場所により下部にアカホヤ粒を多く含む部分がある。

Ⅱ層：黒色軟質土　　軟らかく粘性が少ない。漆黒色のいわゆるクロボク土である。小規模な窪地

にのみ存在する。

Ⅲ層：暗黄褐色砂質土　軟らかく粘性が少ない砂質土である。アカホヤ風化土層である。場所によっては縄文時代前期から古代、中世の遺物包含層である。

Ⅳ層：黄褐色砂質土　粘性は少ないが硬い。下部に砂や軽石粒を含む。

Ⅴ層：黒褐色硬質土　粘性が強く非常に硬い。光沢のある砂粒を少量含む。下部が縄文時代早期の遺物包含層である。

Ⅵ層：暗褐色硬質土　粘性に富み硬い。下部にいくにしたがってやや軟らかくなる。縄文時代早期の遺物包含層である。

Ⅶ層：褐色硬質土　粘性が強く硬い土の中に2㎜程度の軽石粒を含む。この土がブロック状になっており隙間には粘性の少ない暗褐色軟質土が入っている。軽石粒は約15,000年前に降下した小林軽石と思われる。旧石器時代の遺物包含層である。

Ⅷ層：暗褐色軟質土　やや粘性を帯びており、軟らかい。

Ⅸ層：褐色軟質土　やや粘性を帯びており、軟らかい。下部にいくにしたがって砂質が強くなる。Ⅷ層とX層の漸移層である。

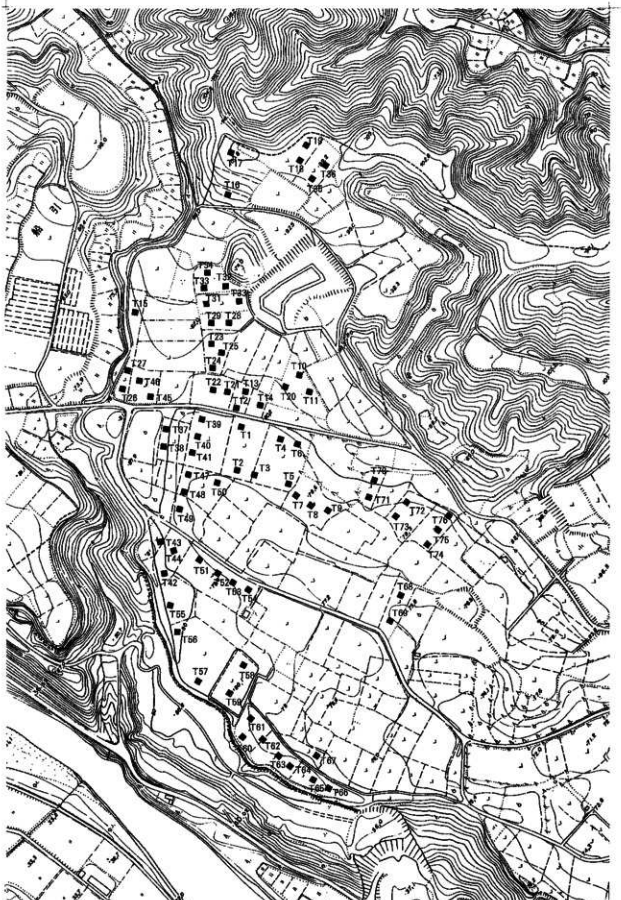
X層：白褐色砂質土　いわゆるシラス層である。上部は風化しており褐色を帯びている。下部は白色の強いシラス層を成す。

今回の確認調査でT15・T28・T31・T33・T35・T36・T40・T41・T42・T43・T48・T49・T51・T55・T56・T62・T74で遺物又は焼け石が確認された。T36ではⅠ´層から、T71・T74ではⅤ層から堀込みが確認された。

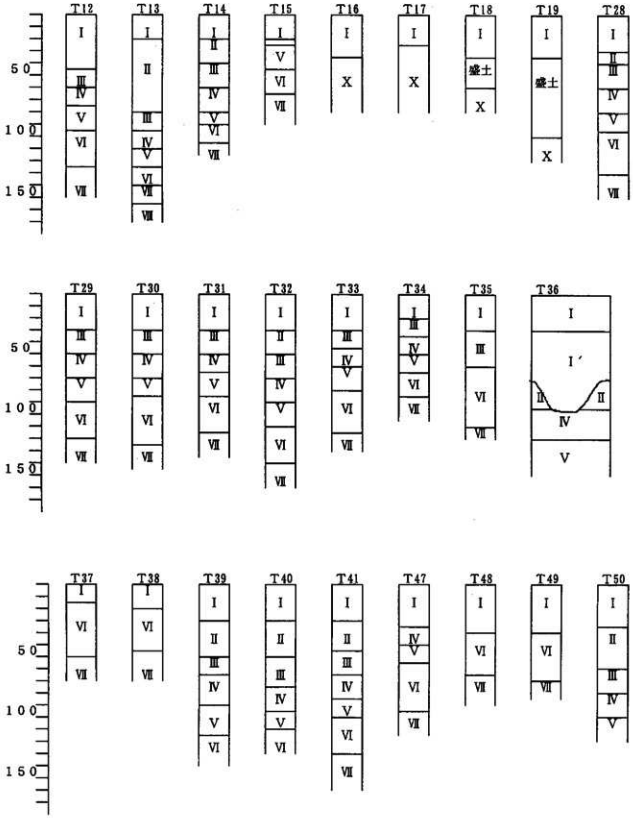
このことから、台地の縁辺部を中心に遺跡が所在することがうかがえる。また、縁辺部であっても遺跡に濃淡があることが考えられる。

遺跡は、縄文時代早期を中心とするもので、広い範囲に及んでいる。

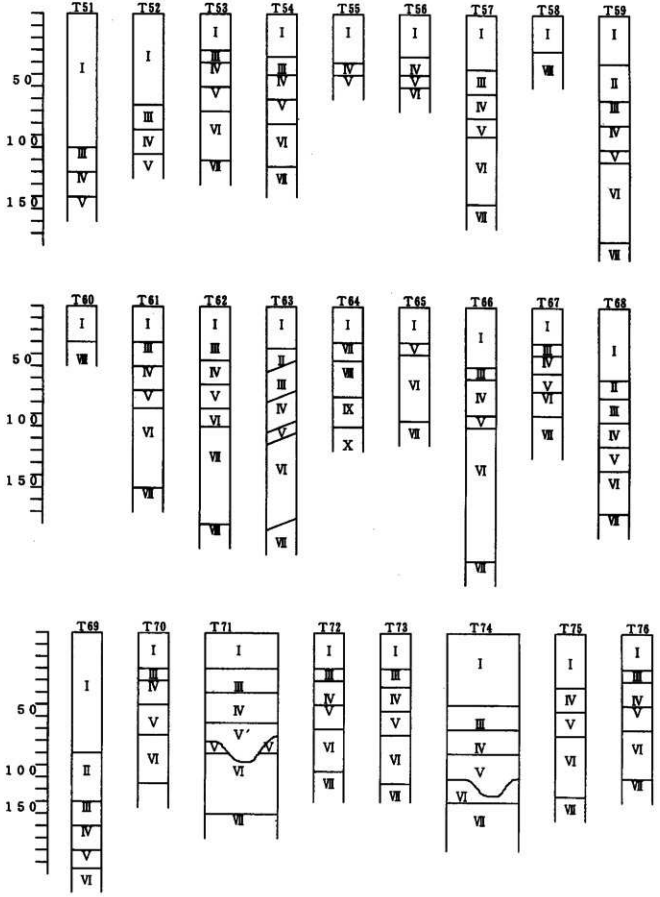
第1図　船引地区位置図



第２図　船引地区遺跡トレンチ配置図



第3図　船引地区遺跡土層柱状図



第４図　船引地区遺跡土層柱状図

第２節　大野原遺跡・五か村遺跡

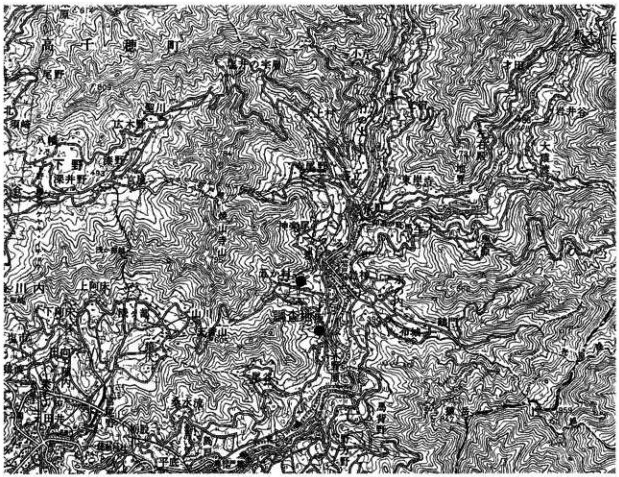
遺跡は、両方とも西臼杵郡高千穂町大字三田井に所在する。県営広域農道整備事業西臼杵３期地区事業に伴い、平成10年６月４日・18～19日に行った。

調査地は、岩戸川の右岸に位置する。大野原遺跡は県道を挟んで平成10年度本調査を実施した古城遺跡の西側、五ヶ村遺跡は古城遺跡の北北西500メートルに位置する。

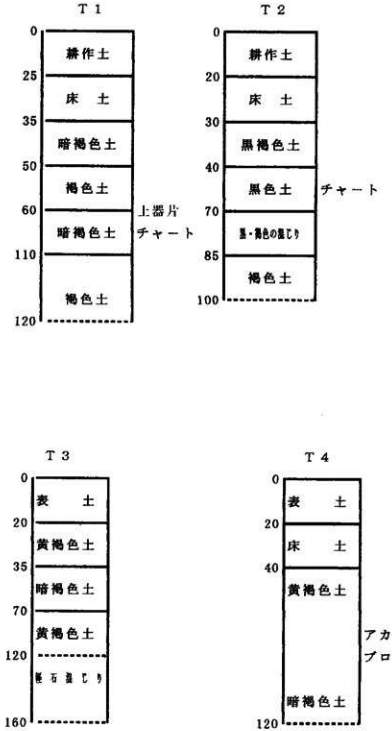
現況は両遺跡とも水田である。

大野原遺跡の事業予定地内ではトレンチを２本入れた。（Ｔ１・Ｔ２）水田の床土の下は褐色土で、アカホヤは削平されていた。第１・第２トレンチからチャート製の石器が出土し、第１トレンチからは暗褐色土の層から縄文時代早期の土器片も出土した。遺構は検出できなかった。

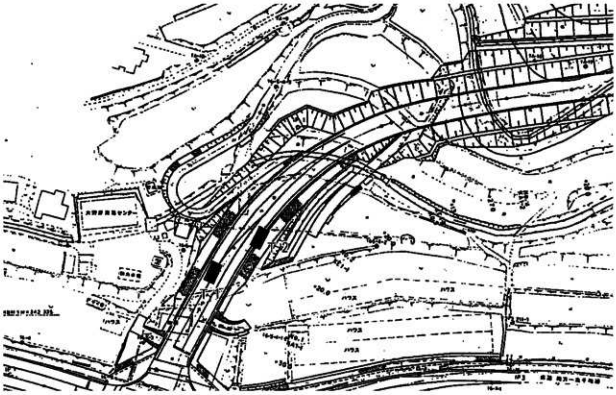
五か村遺跡は、同じく２本のトレンチを入れた。（Ｔ３・Ｔ４）ここも水田の床土の下は褐色の土の層でアカホヤは確認できなかった。遺物は大野原遺跡と同じく、褐色土層より土器とチャート製の石器が多数出土した。Ｔ４では遺構と思われる黒い滲みが検出されたが降雨が激しく確認はできなかった。



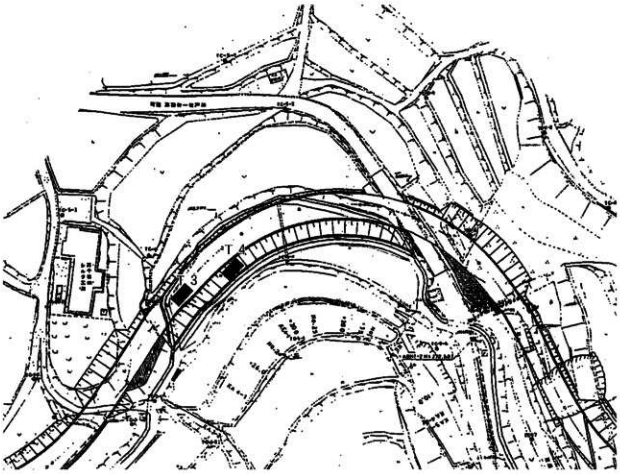
第５図　大野原遺跡・五か村遺跡位置図



第6図　大野原遺跡・五か村遺跡土層柱状図



第７図　大野原遺跡トレンチ配置図



第８図　五か村遺跡トレンチ配置図

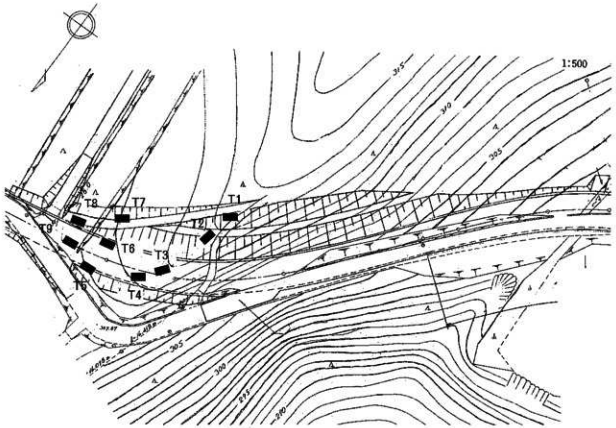
第３節　浜川原遺跡

本遺跡はえびの市大字東長江浦に所在している。県営広域営農団地農道整備事業霧島北部２期地区の事業に伴い平成11年１月25日～27日に試掘調査を行った。

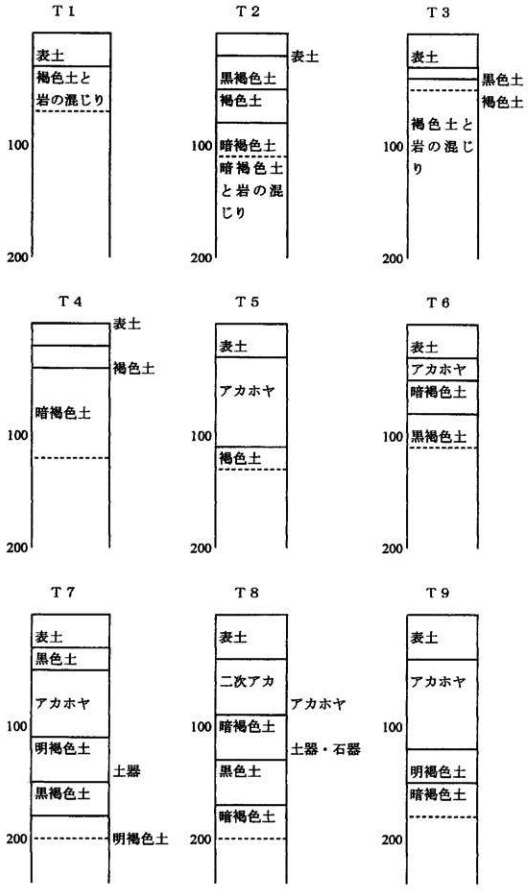
調査地区は台地の端に位置する丘陵部であり、現況は杉林である。調査地区に隣接する部分は畑地であり、縄文時代の土器が表土面より採取できた。

事業予定地には９本のトレンチを入れた（Ｔ１～Ｔ９）Ｔ１～Ｔ４は調査区で一番高い場所であるが、アカホヤは検出されず、表土の下は褐色土であり、岩が露呈している箇所もある。遺物・遺構は検出されなかった。

Ｔ５～Ｔ９はアカホヤの層がはっきりと残っており、厚いところでは80cm近くあった。
この内、Ｔ７からは土器片が、Ｔ８からは土器片と石器（大分県姫島産の黒曜石と思われる）が出土した。これらはいずれもアカホヤ層の下の暗褐色の土層から出土した。遺構はどのトレンチからも検出されなかった。



第９図　浜川原遺跡位置図（60%）



第10図　浜川原遺跡土層柱状図

第4節　横市地区遺跡

横市地区遺跡は県営ほ場整備事業「横市地区」の事業区100ha内に分布する周知の埋蔵文化財包蔵地および推定地を総称して呼んでいる。

横市地区は都城市街地の北部を流れる横市川の両岸に広がる低地と低段丘からなり、低段丘上には今房遺跡や鵜喰遺跡などの縄文時代・古墳時代・中世の遺跡が分布する。一方、その上の台地上にも加治屋遺跡や新宮城など数多くの遺跡が分布する。

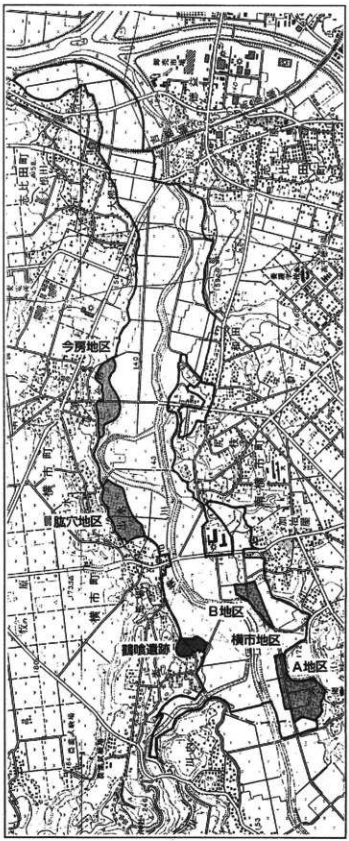
県営ほ場整備事業「横市地区」は平成6年度に北諸県農林振興局から文化財の有無の照会があり、県文化課で分布調査を行い、遺跡及び遺跡の可能性が大きい箇所として10数箇所、約440,000㎡を確認した。

横市地区の調査は平成6年度に県文化課が鵜喰遺跡の試掘調査を行い、削平を受ける部分8,100㎡を8・9年度に都城市教育委員会が同遺跡の本調査を行った。その結果、古墳時代の竪穴住居68軒や、中世の水田跡17枚・掘立柱建物・溝状遺構などが検出された。特に水田跡は15世紀後半に噴火した桜島起源の軽石（文明軽石）に覆われており、水田の区画は一辺10～15mで「棚田」と称された「面積一段歩未満の小田地」である。

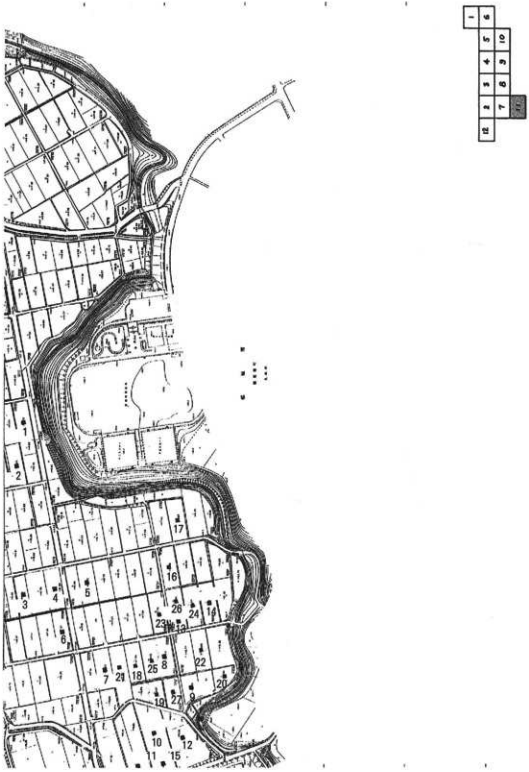
9年度の試掘調査は横市地区、肱穴地区、今房地区などの4箇所で実施し、10年度に都城市教育委員会が肱穴地区の本調査を行った。その結果、縄文時代末から弥生時代初めの竪穴住居、古代の竪穴住居などが検出された。

（1）横市地区

試掘調査は事業区西端の横市川に架かる表橋から鹿児島県境の宝来橋の間の横市川



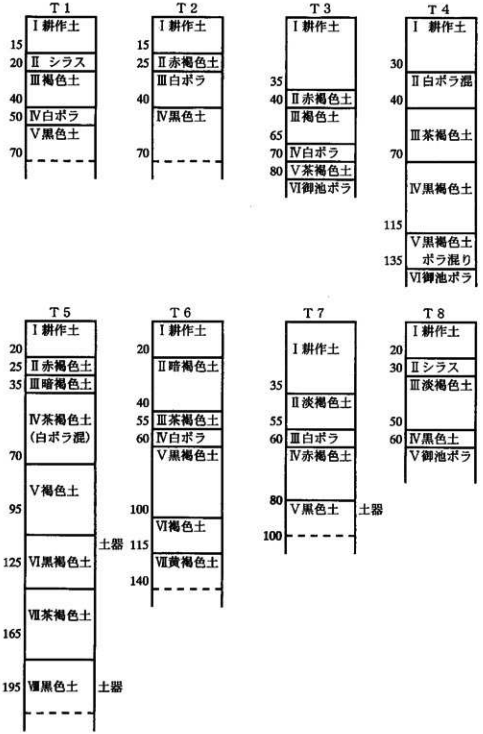
第11図　横市地区調査位置図（1／25,000）



第12図　横市地区（A地区）トレンチ配置図

右岸に広がる低段丘上部分のA地区（11年度施工予定）の試掘を9年度に15箇所トレンチを入れ、G9から土師器が出土し、G8・9では御池ボラ上からピットが堀込まれていた。10年度は遺跡の範囲を絞り込むために11月10日～11月17日までの5日間実施した。12箇所トレンチを入れた。

その結果、4～7、9、10、12の御池ボラ上の黒色土層から平安時代の土師器が出土し、4・6からは青磁も出土している。1・2は地下水位が高く、水がすぐわいた。



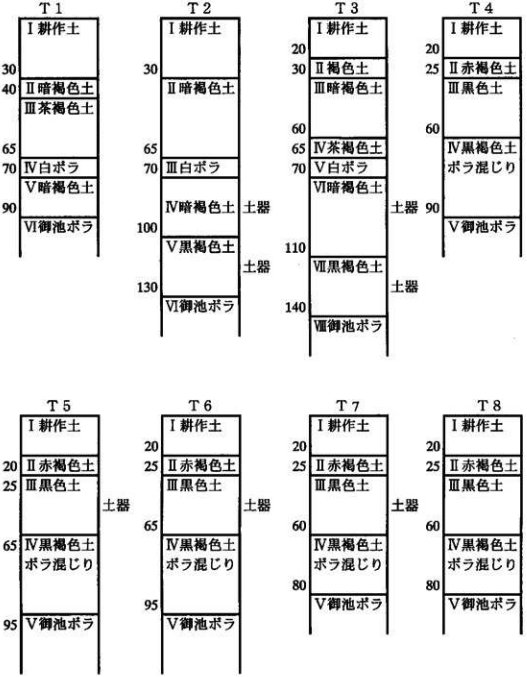
第13図　横市地区（A地区）トレンチ土層図

（2）今房地区

試掘調査は横市川左岸に突出する三日月湖の東側に広がる台地端で、横市川に架かる和田橋の左岸にあたる。11年度以降施工予定の試掘調査を9年度に9箇所入れ、G4ではピット状の落ち込みが検出され、G6・8では土師器が出土している。

10年度は11年度施工予定の台地端部に11月4日～11月9日までの3間実施した。8箇所にトレンチを入れた。

その結果、1～3の御池ボラ上の黒色土層から平安時代の土師器が出土し、4～8の御池ボラ上の黒色土層からは弥生時代後期の土器が出土した。



第14図　今房地区トレンチ土層図

第15図　今房地区トレンチ配置図

第5節　平成10年度　試掘調査・確認調査一覧

	事業地区名	遺跡名等	所在地	調査期間	調査担当	備考（事業内容）
1	船引地区	滑川第1・第2	清武町船引	6／29～8／30	重山郁子	ほ場整備、縄文土器・集石遺構
2	大野原	大野原	高千穂町三田井	6／3,5,18,19	柳田宏一	広域農道、縄文土器・石器
3	麓	亀山城	高千穂町三田井	11／24,25,26	柳田宏一	広域農道
4	東長江浦	浜川原	えびの市東長江浦	1／26,27,28	柳田宏一	広域農道、縄文土器・石器
5	梅北地区	梅北佐土原	都城市梅北町	1／16,21,10／29	長津宗重	ほ場整備、縄文土器
6	平八重地区		高城町平八重	10／30	長津宗重	ほ場整備
7	下水流地区		都城市下水流町	10／13	長津宗重	ほ場整備
8	横市地区	今房	都城市横市町	11／17	長津宗重	ほ場整備、弥生土器・土師器
9	都城地区	中尾山・馬渡	都城市養原町	11／19～12／11,1／8,9	長津宗重	広域農道、縄文土器・弥生土器
10	長江浦・東川北地区	浜川原・内牧	えびの市東長江浦東川北	12／24～1／6	長津宗重	ほ場整備、縄文土器・土師器

平成10年度農業基盤整備事業
に伴う発掘調査概要報告書

平成11年３月31日

編集：宮崎県文化課　宮崎市橘通東1-9-10
0985-(26)7251
発行：宮崎県教育委員会